

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk15076
s24419
神機構-456

③施設名等

名称：	しらかば子どもの家
施設長氏名：	仲嶋 久義
定員：	40名
所在地（都道府県）：	神奈川県
所在地（市町村以下）：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	2011/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人誠心会
職員数 常勤職員：	28名
職員数 非常勤職員：	3名
専門職員の名称（ア）	心理士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（イ）	保育士
上記専門職員の人数：	11名
専門職員の名称（ウ）	児童指導員
上記専門職員の人数：	11名
専門職員の名称（エ）	看護師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（オ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（カ）	
上記専門職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	26
施設設備の概要（イ）設備等：	ホール、子育て支援室、親子支援室、心理療法室、医務室、静養室、
施設設備の概要（ウ）：	浴室、洗濯場、洗面・トイレ、宿直室、食堂、調理室、事務室、
施設設備の概要（エ）：	更衣室、倉庫、駐車場、駐輪場

④理念・基本方針

<p>基本理念 「みんないっしょの養護」</p> <p>基本方針 ・子どもの人権に配慮した援助と個別支援計画により、それぞれの目標に向けた支援を懇切丁寧に行います。 ・そのために必要な職員の専門性及び資質の向上に努めます。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>○月1回「子ども会議」を開催する他、施設内に、子どもたち用の「意見箱」を設置し、子どもたちの声を汲み取るようにしている。子どもたちの声のうち、全体に回答したほうがいいものは、施設長がコメントを記入して、施設内に掲示するようにしている。</p> <p>○子どもたちの学習支援として、児童相談所から派遣される学習講師や、地域の元教師や学生の学習ボランティアがある。小学生は公文教室、中学生は塾に通っている子どももいる。</p> <p>○地域の子どもの会の行事や、体育祭などの町内会行事に、多くの子どもたちが参加している。子どもたちは地域の公園の花壇の掃除や手入れを、職員と一緒にやっている。年1回、地域に向けて「あしたば祭」を開催している。</p> <p>○子育て支援事業として、ショートステイの受入れ事業を行っている。ショートステイのニーズは高く、繰り返し利用する子どもがいるなど、年間のべ20人ほどが利用している。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/5/10
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/2/10
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

定員40名の開設6年目の児童養護施設で、男子は2階、女子は3階で生活を送っている。男子女子とも、高年齢児と低年齢児のユニットに分かれ、小規模グループケアを実施している。子どもたちとの信頼関係を重視し、担当制をとり、土曜日は担当職員と一緒に買物をしたり、外出したりしている。中高校生は夜、個室で担当に相談したりする機会を設けている。また、後援会から多くの支援を受け、昨年度、施設を巣立っていく子どもが、後援会から普通自動車免許取得の援助と卒園祝い金を受けている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

当施設は開所6年目であり、児童養護施設としては卒園児童もまだ少なく、組織としても順次経験を積み重ねている途上にあります。
 第三者評価は2回目の受審ではあるものの、率直に評価していただいて今後の取り組みに活かしていきたいという意識で臨んでまいりました。
 各職員の意識も、長い歴史をもつ他施設と比較するとまだ十分ではないと認識しつつも、外部からの評価を受けて自分たちの業務を見直す良い機会であり、今後の職員全体の資質の向上、そして子どもたちへのよりよい支援につなげていくにはどうすればよいのか等と考えながらの受審でした。
 実際の調査に当たっては、当施設の現状をご理解ご考慮いただきながら、改めて責任者として、あるいは職員として、それぞれの立場で改善、工夫しなければならない点、良い点等を客観的な立場からご意見、評価をいただき、施設運営の在り方を考える良い機会となりました。
 今後は、施設としての基本理念・基本方針をより明確にし、職員全体で目標と課題をきちんと共有しながら、また個々の職員にも施設の将来像を描いてもらい、組織として子どもたちの最善の利益を常に考え支援できるように施設運営に取り組んでいく所存であります。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
月1回、第2火曜日に職員全員が参加して、職員会議を開催している。4月の職員会議では、「年間事業計画書」や「行事担当」、「係り・業務分担」を職員に示している。「計画書」には、施設の方針を記載して、周知を図っている。理念や基本方針の外部への周知は、ホームページや広報誌を活用しているが、後援会と一緒に誌面なので、内容を整理するなど、工夫が必要と捉えている。		

1

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		

2

所管の市の児童相談所の状況について情報を入手し、経営状況の把握・分析に努めている。児童相談所には、一時保護所のベッドが25あり、情報交換を行っている。施設の経営状況については、主任、副主任に投げかけ、職員会議の場で全体にも説明を行っているが、現場の職員にとっては実感が湧かないことから、職員の意識付けについては、今後の課題としている。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	c	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもたちの人数が減ると、暫定定員になり、措置費が下がってしまうため、状況把握に努めている。昨年度は5名の退所があった。新しい施設なので、改修を行うのには苦しい状況にある。施設は海から近いので、建物に錆が出たり、門の改修が必要な状況にある。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	4	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		

【コメント】

一昨年度、市に「家庭的養護推進計画」を提出している。「家庭的養護推進計画」は、5年毎に前期、中期、後期に区切り、自立支援計画、個別の支援、人材育成についてまとめているが、具体的な計画の策定にまでは至っていない。前期については、今の取組を充実させていくことを目標としている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		

【コメント】

今年度より、施設長が交替した。今年度の事業計画は、具体的な計画になっているが、昨年度中に作成されたため、文言などの修正が必要と捉えている。内容については、主任や副主任の意見を聞いて、精査していく予定である。

(2) 事業計画が適切に策定されている。	6		
①		6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	c
		<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
		<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

今年度の事業計画は、全職員に配布しているが、内容の周知は不十分である。主任、副主任を中心に職員の意見を聞いて、適宜評価を行っていく予定である。

7

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画は、法人や職員への周知が主体になっている。保護者には配布していないが、いつでも渡せるようにはしている。毎月、フロア毎に「子ども会議」を開催しているので、子どもたちにはその場で説明することは可能である。周知の方法については、主任・副主任会議で提案していく予定である。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

8

【コメント】

子どもたちに対する支援については、これまで統一した支援を行うことができていなかった。現在、実際の支援を振り返りながら、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを行っているところである。人権委員会を月1回開催し、現場の職員を中心にして、人権に配慮した独自のマニュアルを作成中である。

9

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価の自己評価については、職員各自が取り組み、課題の共有化に取り組んでいるところである。現在、課題を共有できるところまでには至っていないが、ヒヤリハットの書き方など、改善策を検討している。これまでは統括主任を置き全体を見ていたが、今年度から2つのフロアに、主任、副主任を配置している。現場の職員数を厚くして、子どもたちへの支援の向上に取り組んでいる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果		
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	10	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。			
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○		

【コメント】

施設長の役割と責任については、職員会議の冒頭で、「施設長の話」として職員に伝えている。また、広報誌に施設長の挨拶文を掲載し、関係機関や町内会に配布している。事務分担表がないなど、施設長の役割、責任分担については未整理部分があるが、責任を持って職務に取り組んでいる。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	11	
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○		

【コメント】

施設長に就任して1年目のため、多くの勉強会や研修会に参加することはできないが、児童福祉施設長会や関東ブロックなどの研修会に参加している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			
① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b	12	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○		

【コメント】

職員会議や主任・副主任会議、同一建物内にある乳児院との合同での防災会議や合同リーダー会議に参加して、職員の声を聞き、意見を反映するようにしている。子どもたちの声は、意見箱を設置して、内容によっては回答を貼り出すようにしている。

② 13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	13	
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○		
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○		

【コメント】

児童養護施設の特徴から、これまで職員が夏休みを十分にとれなかったため、職員の声を聞き、今年度はリフレッシュ休暇としてとれるようにした。リフレッシュ休暇は、年間のどこでとってかまわず、有休を含めて1週間くらいまとめてとれるようにしている。職員とは、年1回、施設長面接を行っていたが、今年度からは年2回実施する予定である。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	14
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○	

【コメント】

必要な福祉人材を確保し、専門職を配置しているが、保育士は募集が重なることもあり、採用が難しくなっている。また、女性職員の産休、育休取得時の非常勤職員の採用が困難な状況にある。施設の立地条件から、車通勤ができない職員にとって、通勤が不便な面もあり、職員の確保については課題がある。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。		

【コメント】

職員処遇を工夫し、今年度から人員配置を厚くしている。職員の採用は法人からの辞令によるが、実際の採用は各施設の取り組みとなる。期待される職員像として、職務理念の作成を計画している。職員の評価制度は、現在は未確立である。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○	

【コメント】

職員の意向を確認するため、10月より施設長との個別面談を行っている。個別面談では、職務の振り返りや今後の課題、次年度の勤務の希望などを確認している。次年度は5月頃にも全職員を対象にして、個別面談を行う予定である。個別面談を年2回実施することで、職員の意向をきちんと受け止めるようにしていく。働きやすい職場づくりとして、今年度、リフレッシュ休暇を取り入れている。また、当施設では職員に負担がかかる断続勤務の就業形態をとらずに取組んでいる。

<p>(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p>	<p>① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1248 136 1337 226">b</td> <td data-bbox="1337 136 1418 226">17</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 226 1337 286">○</td> <td data-bbox="1337 226 1418 286"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 286 1337 347">○</td> <td data-bbox="1337 286 1418 347"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 347 1337 407">○</td> <td data-bbox="1337 347 1418 407"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 407 1337 468">○</td> <td data-bbox="1337 407 1418 468"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 468 1337 533">○</td> <td data-bbox="1337 468 1418 533"></td> </tr> </table>	b	17	○		○		○		○		○	
b	17												
○													
○													
○													
○													
○													
<p>【コメント】 職員との個別面接を行い、職務の振り返りや今後に向けた課題などを確認しているが、職員一人ひとりの目標管理までには至っていない。職員それぞれに目標を立て、職務理念を作成したり、年2回個別面接を行っていく中で、目標の達成度の確認ができたかと捉えている。</p>													
	<p>② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1248 667 1337 757">b</td> <td data-bbox="1337 667 1418 757">18</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 757 1337 817">○</td> <td data-bbox="1337 757 1418 817"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 817 1337 878">○</td> <td data-bbox="1337 817 1418 878"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 878 1337 938">○</td> <td data-bbox="1337 878 1418 938"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 938 1337 999">○</td> <td data-bbox="1337 938 1418 999"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 999 1337 1064">○</td> <td data-bbox="1337 999 1418 1064"></td> </tr> </table>	b	18	○		○		○		○		○	
b	18												
○													
○													
○													
○													
○													
<p>【コメント】 職員全体の専門性の向上を目指し、研修委員会を中心に、研修計画に基づき研修を実施している。研修委員が内部研修の調整、進行役を担っている。神児研などの外部研修は、職員の研修履歴を把握し、階層別に参加者を決めている。外部研修の参加は職員の希望を聞く場合もある。</p>													
	<p>③ 19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1248 1209 1337 1299">b</td> <td data-bbox="1337 1209 1418 1299">19</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1299 1337 1359">○</td> <td data-bbox="1337 1299 1418 1359"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1359 1337 1420">○</td> <td data-bbox="1337 1359 1418 1420"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1420 1337 1480">○</td> <td data-bbox="1337 1420 1418 1480"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1480 1337 1541">○</td> <td data-bbox="1337 1480 1418 1541"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1541 1337 1601">○</td> <td data-bbox="1337 1541 1418 1601"></td> </tr> </table>	b	19	○		○		○		○		○	
b	19												
○													
○													
○													
○													
○													
<p>【コメント】 全職員の研修参加の機会を確保し、外部研修には、1人年2回は参加できるよう配慮している。若手職員からは、OJTの研修を多くしてほしいとの声もあり、次年度の課題としている。他の施設で働いた経験がない職員が多いため、今後は施設間交流研修などにも取り組んでいきたいと考えている。</p>													
<p>(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。</p>	<p>① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1248 1809 1337 1899">b</td> <td data-bbox="1337 1809 1418 1899">20</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1899 1337 1960">○</td> <td data-bbox="1337 1899 1418 1960"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 1960 1337 2020">○</td> <td data-bbox="1337 1960 1418 2020"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 2020 1337 2080">○</td> <td data-bbox="1337 2020 1418 2080"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1248 2080 1337 2141">○</td> <td data-bbox="1337 2080 1418 2141"></td> </tr> </table>	b	20	○		○		○		○			
b	20												
○													
○													
○													
○													

<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】	
受入れプログラムを作成し、実習生の受入れを積極的に行っている。実習生は夏休みに集中しがちなので、受け入れ人数や時期の調整が必要である。実習は保育実習と社会福祉実習があり、それぞれ受入れ担当を決めて対応している。実習修了後、就職につながった学生もいる。	

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。		
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	
【コメント】		
年3回程度、後援会会報に併せて広報誌を発行している。広報誌に子どもたちの写真を掲載するときには、正面からの顔は掲載しないようにして、プライバシーに配慮している。広報誌は後援会会報と一緒にしているため、見づらい面もあり、検討が必要である。		
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	
<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○	
【コメント】		
同一建物内の乳児院と同じく、会計に関しては、法人全体で外部の機関（会計事務所）に相談、助言が受けられる体制を整えている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	23
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○	
<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○	
【コメント】		

地域の子ども会の行事や、体育祭などの町内会行事に、多くの子どもたちが参加して、地域との交流を深めている。行事には、施設長や職員が付き添い、手伝いも行っている。子どもたちは地域の公園の花壇の掃除や手入れを、職員と一緒にやっている。地域の小学校には20人の子どもが通っているので、学校の行事にも参加している。子どもたちの学校の友だちも分け隔てなく受入れ、自由に施設に遊びに来やすい環境を整えている。年1回、「あしたば祭」を開催し、地域に開放している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○

24

【コメント】

ボランティアの受入れマニュアルを整備して、生活ボランティアや学習ボランティアの受入れを行っている。子どもたちと一緒に遊んだり、行事の手伝いをする生活ボランティアに15人位、学習ボランティアに5人位の地域の方が活動している。学習が遅れている子どももいるため、市の児童相談所より学習講師の派遣も受けている。また、米軍の基地が近いので、ベースのボランティアグループから招待を受けたり、クリスマスには、一人ひとりがプレゼントを貰っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

25

【コメント】

子どもたちは、地域の図書館や体育館を利用している。児童相談所とは、年1回の定期的な連携や随時の連携を行っている。子どもたちが通っている小学校とは、今年度、教頭や担任の教師と年度初めに話し合いを行った。また、後援会からは多くの支援を受け、昨年度、施設を巣立っていく子どものために、後援会から、普通自動車免許取得の援助と卒園祝い金を受けた。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○

26

【コメント】

地域住民や地域の支援者に感謝の意味も込めて、毎年秋に、同一建物内の乳児院と合同で「あしたば祭」を開催している。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
---	-----------------------------------	---

27

<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○

【コメント】

施設独自の公益的な事業の実施は、今後の課題であるが、市の単独事業として、子育て支援事業（ショートステイの受入れ事業）を行っている。ショートステイのニーズは高く、繰り返し利用する子どもがいるなど年間のべ約20人程いる。今後は、地域に向けた子育て相談事業なども検討していく必要があると捉えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	28
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。		

【コメント】

子どもを尊重した養育・支援の実施にあたり、理事からの法人理念の研修があり、また、外部講師による研修として、児童相談所からの研修がある。施設内に食育、学習、性教育、人権の委員会があり、月1回定期的に話し合いを行いながら、子どもを尊重した養育・支援の実施に努めている。自立支援計画は、児童相談所と協議して年2回見直し、子どもたちの養育・支援に取り組んでいる。

② 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。		
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。		
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。		

【コメント】

プライバシーの保護や権利擁護に関するマニュアルは特に整備していないが、職員の理解を促進するために、外部研修に派遣している。入浴は個浴できちんと時間を決めて提供すること、また小さい子どもは大きい子どもの部屋に入りたがるので、他の子どもの居室に入るときには、相手の理解を得ることなどを、子どもたちに伝えている。児童相談所の担当者からは、「こども権利ノート」の冊子に基づいた説明がある。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

【コメント】

施設を紹介する資料は、パンフレット以外は特に用意していない。見学などの希望があれば、いつでも対応できるようにしている。子どもや保護者への情報提供は、子どもたちは様々な背景を抱えて入所してくるので、どの範囲まで伝えるかは、児童相談所と連携を取りながら行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

【コメント】

子どもたちは、複雑な背景を背負って入所してきているため、自立支援計画の作成においては、保護者の参加は積極的に求めている。養育・支援の場面において、小遣いの使い方を自分で決められるよう、子どもたちの主体性、自己決定を尊重している。まずは子どもたちができることから始め、子どもたちの意向を反映した自立支援計画の策定を目指している。面会来園のある保護者に対しては、必要に応じて養育・支援内容を説明し、行事案内もしている。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

園を退所した後の子どもに対して、積極的なアプローチは行っていない。退所後も園の子どもと同じ学校に通っている場合があり、運動会などで元気な様子を確認したりしている。退所後の継続的な関わりは、児童相談所が行っている。措置変更先の施設や保護者からの問い合わせには丁寧に応じている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	33
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○	

第三者
評価結果

<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

フロア毎に、月1回「子ども会議」を開催している。子どもたちからは、「物品が壊れたので購入してほしい」、「入浴室にカーテンを付けてほしい」、「テレビを見る時間を決めてほしい」、「小遣いのこと」など、様々な意見や希望があがっている。すぐに解決できるものは迅速に対応している。子ども同士のトラブルに関する問題は、その場ですぐに解決できないこともあり、日常の養育・支援の場面で、時間をかけて改善できるよう取り組んでいる。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	34
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。		
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

月1回「子ども会議」を開催する他、施設内に、子どもたち用の「意見箱」を設置し、子どもたちの声を汲み取るようにしている。子どもたちの声のうち、全体に回答した方がいいものは、施設長がコメントを記入して、施設内に掲示するようにしている。子どもたちとのやり取りの内容は、保護者には報告していない。保護者からの苦情は、まずは児童相談所に相談してほしいと伝えている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b	35
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】

子どもたちからの相談は、担当者以外の職員も受け止めて、子どもたちが話をしやすい環境を整えている。相談内容は他の職員にも報告し、共有するようにしている。子どもたちが意見を述べやすいよう、面接室を使用している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	c	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

子どもたちからの意見や希望は、月の初めに開催する職員会議の場で内容を検討し、各フロアで開催される月末の「子ども会議」で、検討内容を子どもたちに伝えている。早急に対応しなければいけなかったものについては、対応した職員が、職員会議で報告している。子どもたちの意見や希望は、できるだけ汲み取るようにしているが、費用が発生するものについては、すぐには対応できないこともある。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果	
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。		

【コメント】

リスクマネジメント委員会は設置していないが、職員会議の場で、ヒヤリハット報告書や事故報告書をもとに安全確保や再発防止の検討を行っている。子どもたちの間には支配関係が発生することもあり、不安定になってしまった子どもは、児童相談所に相談し、一時保護所を利用したりするなどしている。子どもたちは、職員の動きを見て、安心して生活を送っている。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	38
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。		
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○	
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。		
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。		

【コメント】

常勤の看護師を中心に、感染症の予防に取り組んでいる。子どもたちが外から帰園した際には、手洗いを励行し、使用するタオルもペーパータオルとしている。同一建物内の1階が乳児院なので、万が一、インフルエンザなどが発生したときには、小さな子どもたちへの感染予防のために、1階から隔離したなかで対応することを決めている。

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	39
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○	
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○	
<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○	
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。		

【コメント】

災害時における子どもの安全確保のために、同一建物内の乳児院と合同で、毎月、防災会議を開催し、避難訓練を実施している。避難訓練では、休日や夜間を想定した訓練も行っている。施設の周りには住宅が少ないため、地域との連携がとりにくいが、消防署の協力を得て、訓練などを実施している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b	40
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		

【コメント】

養育・支援の標準的な実施方法は、施設独自では文書化していないが、概略的な実施方法は決めている。それに基づき、子どもたちの人権を尊重した養育・支援を提供している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

【コメント】

自立支援計画は、年2回、定期的に見直しを行っている。ただし、子どもや保護者の意見や提案を反映した内容までには至っていない。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。			
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。		

【コメント】

自立支援計画を作成する際には、生活場面での子どもたちの様子や、日々の支援記録などをもとに作成している。自立支援計画作成時には、特にアセスメント表は用いていない。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

自立支援計画については、職員会議の場で状況を報告し、職員間で内容を共有している。自立支援計画の評価・見直しは、年2回行い、新たな課題、支援内容を追加している。児童相談所と密接に連携を図りながら、特に困難なケースは、児童相談所につなげている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

子どもたちとの面談の記録や、保護者との面会時の記録、育児記録、児童相談所との関係記録、学校関連の記録など、記録類の様式を統一している。記録した内容については、施設内LANや職員会議などで情報を共有している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。		
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。		

【コメント】

記録類の保管についての規程は特に整備していないが、記録の管理については職員間で徹底している。

□

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	A1	
<p>① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	A1	
<p>【コメント】 職員会議や自立支援計画の策定の場面で、子どもの尊重と最善の利益について話し合いを行っている。日々の子どもたちとのやり取りの振り返りは、外部からスーパーバイザー（大学の先生）の協力を得て行っている。</p>			
<p>② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	A2	
<p>【コメント】 子どもたちから入所理由を知りたいという話があったときには、それぞれが複雑な背景を抱えていることから、児童相談所のケースワーカーに相談しながら、対応方法を検討している。児童相談所のケースワーカーと連携するなかで、ケースワーカー主導で対応する場合も多い。どのタイミングで子どもに対して伝えるのがいいのか、児童相談所のケースワーカーに相談している。</p>			
(2) 権利についての説明	<p>① A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。（例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会）</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p>	<p>b</p> <p>○</p>	A3
<p>【コメント】 子どもたちに対する権利についての説明は、児童相談所を中心に行っている。施設内に人権委員会を設置し、子どもの暴力への対応や、子どもと職員の関係のなかで不適切な関わりがないか、協議している。</p>			
(3) 他者の尊重	<p>① A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。</p>	<p>b</p>	A4

<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもが個別にふれあう時間を確保している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちとは、誕生日の外出や、児童相談所へ同行した際に昼食を一緒に摂るなど、個別的な関わりを行っている。「子どもたちをほめる」、「大人が手本を見せる」ことを基本にし、他者に対して子どもたちが思いやりの気持ちを育むことができるよう支援している。子どもたちの間でトラブルが発生した場合には、職員が間に入り、関係を修復できるよう関わっている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

就業規則に、体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないことなどは明記していないが、該当するような事案が発生した場合には、法人全体の問題として捉え、行政の主管部署や児童相談所の担当ケースワーカーに状況を報告して対処している。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。		

【コメント】

子どもたちに対する不適切な関わり防止と早期発見については、職員に事例などを示して、報告の義務や事実の確認、謝罪、説明などの対応が必要なことを周知している。法人全体で懲戒委員会を設置し、不適切な関わりがあったときの対応を職員に示している。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】
児童福祉法に基づき、該当するような事案が発生した場合には、施設内で状況を調査、確認し、法人の理事会で内容を協議し、関係部署に報告することとしている。

(5) 思想や信教の自由の保障			
①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	b	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
子どもや保護者の思想や信教の自由については、これまで配慮が必要な事例はない。職員の意識も十分ではないかも知れないが、特に制限をするような規程は作っていない。

(6) こどもの意向や主体性への配慮			
①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
新たに入所してくる子どもには、「ウェルカム・メニュー」を設け、好きな献立を用意したり、靴箱や箸を準備したりして、施設全体で受け入れの準備をしている。年齢が高い子どもには、施設の生活の日課について事前に詳しく説明し、小さい子どもには受入れ後、その都度、説明するようにしている。保護者との分離体験からの回復については、児童相談所の担当ケースワーカーと連携して取り組んでいる。職員が退職することによって、子どもが不安定になることを解消するため、あらかじめ次に担当になる職員を紹介したりして、子どもたちの気持ちを汲み取るよう、職員全体で状況を共有している。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
子ども会議を定期的を開催し、生活日課や生活プログラムを、子どもたちと一緒に検討している。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活			
①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	<input type="checkbox"/>	

	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
子どもたちは、本人の希望により、地域の公文教室に通っている。また、ハロウィーンや地域のお祭り、町内運動会、餅つき大会など、町内の行事に参加している。行事の参加については、本人の希望やアルバイトを優先するようにして、参加は強制していない。			
	② A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。		
【コメント】			
子どもたちは小遣い帳を使って、小遣いを自己管理している。小遣い帳にはレシートも貼付して、職員が内容を確認している。児童手当は、退所後の生活に充てられるよう貯金し、退所時本人に手渡しできるようにしている。			
(8) 継続性とアフターケア			
	① A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		
【コメント】			
家庭復帰した子どもは、これまで1人いて、今年度末にも1人、予定している。保護者が子育てを感わないように、情報を提供したり、転入先の学校の準備について、アドバイスなどを行っている。			
	② A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		
【コメント】			
高校の在籍がなく措置継続や措置延長をしたケースはこれまでないが、今後は状況を確認しながら、児童相談所と連携を密に図り、対応していく姿勢でいる。			
	③ A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		

	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○
【コメント】		
安定した社会生活を送ることができるようにリービングケアと退所後の支援については、意識を持った子どもについては、担当が適宜行っているが、全体的には今後の課題として捉えている。		

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○	
【コメント】			
一人ひとりの子どもの入所の経歴から現在の状況までがわかる個別ファイルを職員が把握し、どのような体験をしてきた子どもか、心の中ではどのような思いがあるのかを理解し、寄り添った関わりをしている。自分の感情がうまく表現できず不適切な声を上げたり、他の子どもに暴力をふるったりする子どもの場合は、静かな部屋で職員が向き合い、気持ちが落ち着いてから話を聞くなどの対応をしている。そのような感情表現はどうしてなのか、心理士を交えて話し合い、適切な対応の方法を検討している。			
②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○	
<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○		
【コメント】			
子どもとの信頼関係を重要視して、担当制をとっている。土日は、担当職員と一緒に買物をしたり、外出したり、外食したりしている。中高校生は夜、個室で担当に相談をしたりする機会を設けている。夜間は、幼児の部屋には職員と一緒に寝て、安心できる体制をとっている。			
③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。		

<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	

【コメント】

子どもが自分で初めて何かができるような場合には、職員は見守りながら、できたことを褒めて、一緒に喜んでくれる。子どもたちの成長記録は、個別に記録し、全職員が把握できるようにしている。感情表現がうまくできず、壁を蹴ったり、他の子どもに手を上げたりときには、静かな部屋で気持ちが落ち着くまで職員と過ごし、気持ちが落ちついてから話し合い、謝りに行くなど、自分で解決できるようにしている。学校の持ち物は前夜に子どもたちが準備し、朝、職員が声かけをして送り出している。子どもたちの夕方の帰園時には職員の配置も多いことから、子どもたちに十分関わるようにしている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○	

【コメント】

自分のおもちゃは、子どもたちそれぞれの引き出しに入れて保管している。クリスマスや誕生日には、自分の好きなおもちゃを買ってもらえることができる。子どもたちの希望は、ゲーム機が多く、中・高校生は自分で管理している。本は、寄付を受けたものを活用している。月1回の「子ども会議」の場で、子どもたちの希望を聞いたり、サッカーやコンサートなどの情報を職員が伝えている。地域の方や、児童相談所から派遣された学習ボランティアが定期的に訪れている。地域の公文教室に通っている子どももいる。遊び相手として、サポートセンターから学生が訪問するなど、地域との関わりは多い。幼児は、幼稚園や認定こども園に通園して、多くの経験を積んで楽しんでいる。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気です秩序ある生活が営まれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

2～3人の子どものテンションが高く、他の子どもたちに迷惑になることがあるため、ユニットの中に「声のものさし」という動物のイラスト入りの表を貼り、職員が今はゾウの声(大声)などと声かけして、秩序ある生活を守るようにしている。「子ども会議」で話し合ったルールを貼り、他の子どもの部屋に入るときのルールなどを守るようにしている。自分たちが「してはならないこと」や、「してはいけないこと」を、子どもたちが話し合いで決めている。地域とのつながりも多く、町内会や近隣の小・中学校、米軍基地などの行事に参加し、地域と触れ合うことで社会的ルールを学んでいる。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
---	---	---	-----

<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えるための食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

食生活委員会を置き、子どもの希望を栄養士に伝えたり、残食の検討をしたり、夜食のことなどを話し合っている。食事はワンプレートの器に盛るのではなく、より家庭に近いように、茶碗や箸など、自分の好みのものを使用して食事を楽しんでいる。誕生日には好きなものをリクエストして、作ってもらっている。同一建物内のベビーホームで、お食い初めの子がいるときは、お食い初めの献立を提供している。お食い初めの話を聞いたり、鯛をさばってもらったりしている。米軍基地からの訪問もあり、目の前でハンバーガーを作ってもらったりしている。また、毎月、行事食を提供し、子どもたちはとても楽しみにしている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもの対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

栄養士が、年齢に応じたバランスのよい食事を考え、献立を作成している。高校生など、夜食が必要な子どもには、内容をフロアで考え、夜食を提供している。子どもたちは、アルバイトのお金で、自分でお肉を買ってきて焼き肉を作り、皆で食べたりしている。栄養士が食事のアンケートを取り、希望の多いものを献立に反映するようにしている。中・高校生は、ユニット内でお好み焼きを作ったりすることがある。アレルギーの子がいるため、除去食はトレイに乗せ、厨房で配膳して間違いのないようにしている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
 子どもたちは、誕生会のリクエスト食や、クリスマス会などの行事食を楽しみにしている。献立をホールに貼り、子どもたちがそれを確認して、「今日は唐揚げ」などと楽しみにしている。偏食のある子どもには、食べられないものは量を少なく盛るなど配慮し、少しでも食べることを勧めている。食事の時は、子どもたちが分担して役割を担い、準備や後片付けの習慣を習得できるようにしている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】
 子どもたちの衣類は、小さいこどもは寄附されたものを着用したり、担当と一緒に、自分の好みのものを買に行っている。生活の中では普段着が多く、洗濯して清潔に着られるものを着用している。中でも女の子はオシャレな可愛いものを選んで購入している。学校の給食着などは、洗濯してアイロンをかけて返している。入学式などの特別な日には、オシャレをして出かけられるように配慮している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】
 訪問時、廊下にペットボトルを使用した花器に花が活けてあり、その横に、子どもたちが拾ってきたどんぐりや落ち葉が飾られていた。各ユニットに加湿器を置き、風邪の予防に配慮している。ホールのテーブルや椅子は、食べこぼしの残りがなく、常にきれいに拭いて清潔にしている。ユニット内では、幼児から中学生、または中学生から高校生までの子どもと一緒に生活しているので、小さい子ども用と大きい子ども用のテレビを設置している。

(5) 住生活

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

男女とも小規模のユニット制をとっており、小学校高学年以上の子どもの居室は個室になっている。小学校低学年児は、幼児と一緒にユニットなので、落ちつかないこともある。幼児の居室は3、4人が一緒なので、友達と騒いで大声を出してうるさい場面もある。そのため、「声のものさし」という動物の声の表をホールに貼り、職員が今はゾウの声（大声）になっているので気をつけようなどと声かけしている。中高校生は、夕食後は自室にて、学習している。幼児や小学生は、早めに入浴して就寝するため、中高校生への学習には特に邪魔にはなっていない。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

学校から帰ったときには、手洗いやうがいをすることを習慣づけ、インフルエンザなどの予防に努めている。先日、幼児の中で水疱瘡の子どもが出たが、他の子どもにはうつらずにすんでいる。毎日の身だしなみは、幼児や小学生は職員が関わり、中・高校生は自分でやっている。散髪は近くの美容室に定期的に通っている。職員が散髪をする子どももいる。幼稚園や小学校の送迎は、必ず職員が行い、その途中で交通ルールを教えている。子どもたちは、学校の交通安全教育の中でも、ルールを学んでいる。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

年2回の嘱託医による健康診断の他、歯科、耳鼻科、皮膚科、眼科などにも受診している。現在、アレルギーの子ども以外は、定期的に受診をしている子どもはいない。受診の際は看護師が付き添い、結果を職員に伝えている。子どもたちの薬は看護師が管理し、名前を付けて朝、夕の薬箱に入れ、職員が服薬介助をしている。薬の飲み方や目薬のさし方などをマニュアル化し、職員がいつでも確認できるようにしている。アレルギーについては、看護師を講師に勉強会を行い、緊急時の対応方法を習っている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

性教育委員会を設置し、年齢ごとのカリキュラムに応じた性教育を行っている。性教育委員は「神奈川県児童福祉施設職員研究会」に参加し、性に関する具体的対応について学んでいる。男子は男性職員が、女子は第二次的徴期を迎えた時に女性職員が具体的に対応の仕方を教え、相談に乗っている。女子寮と男子寮に分かれて生活しているが、自然に相手を尊敬できるような関わりを行っている。

(7) 自己領域の確保

<p>① A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。</p>	b	A30
<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	
<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○	
<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○	
<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。		

【コメント】

子どもの衣類やおもちゃ、文具は、自分の好みのものを購入して、自分の引き出しやタンスに保管するようにしている。小学生は自分で片付けを行っているが、幼児は片付けがまだ難しいため、職員が教えながら、一緒に行っている。幼児は皆、字が読めるので、名前を書いて、自分のものがわかるようにしている。茶碗や箸は皆、自分の好みのものを使っているため、食事のときは、自分の食器は自分で準備したり片付けたりしている。

<p>② A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。</p>	b	A31
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○	
<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。		
<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。		
<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	○	

【コメント】

同一建物内のベビーホームから入所してきた子ども8人は、すでにアルバムを持っているので、そのアルバムに成長に合わせて写真を加えている。ただし、家庭から来た子どもは、撮った写真はパソコン上で管理しているので、アルバムは持っていない。パソコンはいつでも子どもと一緒に見ることができるようにしている。今年の3月に卒園して自立した子どもや、小学1年生になり自宅への引き取りになった子どもには、すべての成長記録をCDに入れ、お祝いとして渡している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

<p>① A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。</p>	b	A32
---	---	-----

<input type="checkbox"/>	施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

何かのきっかけでパニックになる、暴れる、他の子どもに手を上げる、ものを放り投げるなどの行動がみられる子どもがいる。自分の欲求がうまく伝えられず、感情をコントロールすることができないため、その子どもが何を言いたいのか、何がしたいのかをカンファレンスなどで検討し、対応している。他の子どもや本人に危険が生じる場合は、行動を中止させ、気持ちが落ち着くように静かな部屋で落ちつくまで待ち、本人と話し合うようにしている。心理士との面談を行ったり、児童相談所とも連携を取りながら対応している。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b	A33
<input type="checkbox"/>	人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/>	問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
<input type="checkbox"/>	生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。		
<input type="checkbox"/>	課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/>	大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

登下校の際、小さい子どもをいじめたと、子どもから情報があるときには、いじめた子どもと職員が話し合い、小さい子どもに謝りに行くということがあった。入所間もない子どもが登校を嫌がり、寮に残っているときに、他の子どもが何で学校休んでいるのか本人に言ったことがある。職員が休んでいる子どもの今の気持ちを説明して、理解してもらったこともある。休んでいた子どもも、職員の働きかけにより登校するようになり、今は仲良く学校に通っている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b	A34
<input type="checkbox"/>	強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		
<input type="checkbox"/>	引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/>	緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/>	強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。		

【コメント】

子どもたちのほとんどが親に虐待されて入所してきている。親は子どもを育てることに困っていることが多く、これまで強引に子どもを引き取ることは見られなかった。入所時には、児童相談所と親に対する対応方法を話し合い、対応している。以前女兒が無断外出をしたとき、警察署に協力してもらったことがあり、警察署も園の状況を理解し、現在も情報交換を行っている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b	A35
<input type="checkbox"/>	心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/>	施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		

<input type="checkbox"/>	心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

心理士を配置し、定期的に面接を行い、心理的ケアの内容を自立支援計画に反映している。子どもたちも、学校で嫌なことがあったときなどには、いつでも話を聞いてもらっている。心理士に話を聞いてもらうことで、満足感が得られるようである。難しい背景のある子どもに対し、生活にフィードバックできるよう、職員も心理面のケアのアドバイスをもらっている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b	A36
<input type="checkbox"/>	静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
<input type="checkbox"/>	学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。		
<input type="checkbox"/>	障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

小学校低学年の子どもは、居室が個室ではないので、落ち着いた場所で学習することが難しい現実がある。居室が個室の子どもは、時間を決めて集中して学習している。子どもたちの学習支援として、児童相談所から派遣される学習講師や、地域の元教師や学生の学習ボランティアがある。小学生は公文教室、中学生は塾に通っている子どももいる。特別支援学級の子どもも多いが、職員と相談して、普通級に代わった子どももいる。子どもたち自身が一番望んでいる学習環境を選択できるよう支援している。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
<input type="checkbox"/>	早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。		
<input type="checkbox"/>	奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。		
<input type="checkbox"/>	進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。		
<input type="checkbox"/>	中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
<input type="checkbox"/>	高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

子どもたちは、高校には皆進むという意識があり、積極的に進学を考えている。特別支援学級にいる子どもも、普通高校に行きたいと思っている子どもが多いため、職員や学校の教師と話し合を行っている。これまで、中学校や高校を中退した子どもはいない。施設を開所して6年目なので、高校を卒業して退園した子どもも、まだ1人である。これまで、奨学金を活用した子どもはいない。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
<input type="checkbox"/>	実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生は積極的にアルバイトを経験し、社会生活に慣れるように取り組んでいる。アルバイトは、近くのスーパーやガソリンスタンドで行っている。どちらの会社も、施設のことをよく理解してくれている。施設の子どものイメージが強くなるので、職員はあえて出向いていない。アルバイトのお金は皆、卒園後の生活のために貯金している。高校生のうちに、運転免許の資格を取得できるよう支援している。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b	A39
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○	
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○	

【コメント】

入所時、児童相談所と家族と話し合いを行い、施設での支援の内容を説明して信頼関係を築くよう努めている。家庭支援専門相談員は専任で置いていないが、心理士も家族との関わりを積極的に行っている。ただし、入所後は面会に来る保護者が少ない現実がある。児童相談所と相談しながら、家族との関係づくりを行っている。

(12) 親子関係の再構築支援

① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

対応が困難な子どももいる。保護者自身、心理的に難しい問題を抱えているため、保護者との関わりも児童相談所との話し合いで決めている。保護者が困難を抱えていることが多いため、家族関係の修復が難しい子どもが多い。その中でも、祖父が可愛がり、定期的に面会に来てくれ、一時帰宅などを行える子どももいる。家族にかわいがってもらえているという安心感からか、普段も落ち着いて生活を送っている。

(13) スーパービジョン体制

① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定期的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。		
<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。		

【コメント】

月1回、神奈川県立保健福祉大学の教授にスーパーバイザーとしてきてもらい、職員の資質向上に努めている。また、市の児童相談所から子育てに関する助言をもらっている。園内では、会議の際に施設長からスーパービジョンを受けている。日常の場面では、主任と副主任が職員の相談に乗ったり、助言をしている。